

未来を拓く国語教育の創造

—評価活動の充実を通して、学びの質を高める単元づくり—

話すこと・聞くこと部 研究主題

自己充実を目指し、「求めて聞く子」を育成する指導と評価の工夫

第5学年国語科学習指導案

単元名 考えを比べて聞き、「スクールミーティング」で よりよい学校をつくろう

日時：令和4年11月15日（火） 5校時

児童：世田谷区立烏山北小学校 第5学年 組31名

担任：世田谷区立烏山北小学校 教諭 謝花 姿奈子

指導者：世田谷区立烏山北小学校 教諭 謝花 姿奈子

1 単元の目標

- (1)情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。
- (2)話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。
- (3)言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書し、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。

2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評 価 規 準	①情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。 ((2)イ)	①「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ)	①粘り強く互いの立場や意図を明確にしなが、学習の見通しをもって、身の回りの問題を解決するために話し合おうとしている。

3 単元構想

(1) 児童について（児童観）

国語についての学習アンケートを行ったところ、国語が好き・どちらかといえば好きと答えた児童は、6割程度おり、話すこと・聞くことに限って尋ねると、8割の児童が好き・どちらかといえば好きと回答している。多かった理由は、「自分と違う友達の意見を聞くことが好き」「友だちと一緒に考えると楽しい」「意見を言える」「新しい考えが出てくる」「共感できる」「違いに気づける」などの理由だ。しかし、一方で、文を読むことや、文章を書くことが嫌い、漢字が苦手と国語が嫌いと感じる児童も少なくない。話すこと・聞くことを嫌い・どちらかといえば嫌いと言う児童の回答に目立ったのは、「緊張してうまく話せない」というものだった。「話すこと・聞くことに」においては、積極的に発言し、自分の考えを伝えることについては意欲的な児童は少なくない。しかし、自分の考えを聞いてもらって認められたいという気持ちが強く、友達の考えにまでは関心が向いていないため、積極的に発言する児童が多い割に、話が広がらず、深まっていけないという課題がある。話し手が話す内容に興味をもって聞こうとする態度、話の内容をつないで話したり質問を

したりする力の育成がさらに必要だと感じる。友達にインタビューをした「きいて、きいて、きいてみよう」の単元では、聞きたいことをはっきりさせて聞くことはできたが、相手の応答に合わせて臨機応変に質問をしたり、話の流れをつないで話したりということには難しさを感じていた。一方、話し手は自分の話を共感的に聞いてくれることや、記録者の報告の中で賞賛されたりすることで満足感を得られているようだった。そこで、2学期は朝学習の時間を利用して座談会を行い、話を広げたり、つないだりする活動を毎週行っている。身近で簡単な話題をもとに対話する中で、話を広げ、つなぐ方法を試し、経験を重ねている。友達のことを良く知るにつれ、徐々に聞き手は、話し手の話す内容に関心をもつようになり、具体的な質問も飛び交うようになってきた。

本単元では、話し手の意見と自分の意見を比較しながら考えたり、友達の考えやアドバイスを受けて自分の考えを整理しながらまとめたりできるようにすることを旨とする。そのために、相手の話をメモに取りながら聞いたり、質問をしたりしながら詳しく聞くなどの指導をしていく。

(2) 学習材について (学習材観)

・5年生の実態にあった話題

高学年になって半年が経過した5年生は、縦割り班活動や、クラブ活動等でも下学年の面倒を見る機会が増えてきている。最高学年まであと数か月となった5年生には、学級や学年を越えて学校全体のことを考えてふるまうことも期待されている。このような時期に、学校全体のことを考え「学校生活をよりよくする」ためにはどうすべきかを話題として話し合いを行うことは、高学年としての自覚を促すとともに、学校のために役に立つことができたという自己有用感をもつことにもつながると考える。

・「実際の生活の場に生きる」話題

自分たちが話し合っただけで考えたことを実現するためには、学校全体に呼びかける必要がある。高学年として、学校全体を動かす委員会活動を通して学校生活場面で実現できる話題である。

・「聞く」必然性のある話題

「学校生活をよりよくする」ためには、様々な立場の児童の考えをすすんで聞くことが必要である。様々な立場からの考えと自分の考えを比べて聞くことで、学校生活をよりよくするための具体的な案を創り出していきたい。

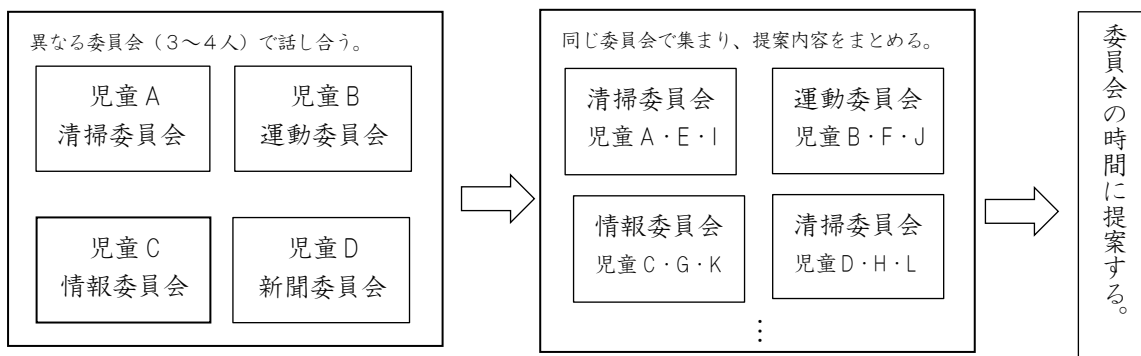
(3) 単元について (単元観)

・学校生活をよりよくするために、様々な立場の児童とともに、委員会を通して実現できる活動を考える。

【大まかな活動の流れ】

(3時・4時) 2回の話し合い

(5時)



- ・話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる力の育成をねらう。
- ・第1時では、自分たちの学校をよりよくするために「どのような学校にしたいか」を出し合い、実現するための案を出し合うという学習計画を立てる。話し合う目的を明確にして、学習の見通しをもたせる。なお、「どのような学校にしたいか」は、大きく二つのテーマに集約しておく。(例:「あいさついっぱい学校」「いろいろな学年と交流のある学校」等) また、スクールミーティングにおいて、互いに意見が活発に行えるよう、委員会の活動内容を共有する時間も設ける。
- ・第2時では、これまでの話し合いの経験から、「話し合いの課題」を明確化させる。また、教師が作成した「話し合いの例」から、「聞き方のポイント」を考える。なお、この「話し合いの例」は動画及び文字化資料の二つを用意し、単元の中で繰り返し活用できるようにする。さらに、スクールミーティングへ向け、話題に対する自分の委員会への考えをもち、話し合いでさらに深めたいことや尋ねたいことを明確にしておく。
- ・第3時では、前時で学んだ「聞き方のポイント」を使って、どのような学校にしたいかテーマ①について話し合う。なお、グループは3~4人程度とし、グループ内は異なる委員会に所属するもので構成し、様々な立場からの考えを聞き合い、自分の考えと比べられることをねらいとする。
- ・第4時では、前時の話し合いの際に書いたメモを振り返り、「メモのポイント」を考えることを取り入れる。聞

き方及びメモの取り方について合わせて指導する。

- ・評価については、ICT機器で話し合いを録音したものを聞き直す時間を設ける。その際、話し手の目的や自分の聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えることができたか、また、話し手の考えと自分の考えを比べて聞くことができたかを振り返り、聞いた内容を整理するとともに、自己評価に生かしていく。
- ・第5時では、同じ委員会で集まり、それぞれの話し合いで出た案を委員会で提案できる形にまとめる。
- ・単元終了後には、各自が所属する委員会でまとめた案を提案し、「学校生活をよりよくする」案を実現させていく。このことを通して、考えが広がったり深まったりする経験や、生活がより豊かになる経験を得ることができると考える。

【話し合いの例】

「よりよい学校にするには」→例「他学年との交流を増やしたい」

Aさん：清掃委員会 Bさん：運動委員会 Cさん：情報委員会 Dさん：新聞委員会

B：他学年との交流を深めるために、運動委員会の企画として下学年と遊ぶ機会をもつことはどうかなと思っているのだけど、どんな遊びがよいか迷っているんだ。どういう風にするのがよいと思う？

A：遊びね！遊びといえば、私は今、塗り絵に夢中になっているんだ！24色の色鉛筆を買ってもらったからね、いろいろな色を使って塗るのがとても楽しいんだ！

C：ちょっと待って、Bさんが聞いているのは、「他学年との交流を深める遊び」だよ。

A：あ、そうか。交流が深まる遊びかあ……。それなら、みんなで楽しめるものもいいよね。学校の校舎全体を使った「おにごっこ」なんてどうかなあ！

D：なるほど。それは確かに楽しそうだけど、みんなで学校の中を走り回るのは、危ないんじゃないかな。下学年の子とぶつかってケガをさせてしまうかもしれないよ。

C：私が所属する情報委員会では、毎学期の情報週間に、タブレットの使い方を低学年に教えにいく活動をしているんだ。だから、運動委員会も運動週間をつくって、その期間の休み時間に、1年生と3年生と一緒に大縄跳びをしたり、2年生と4年生がチームを組んでリレーをしたりするのはどうかな？

D：あ、Cさんは、自分の目線で他の委員会のことを考えたんだね。すごい！
そうしたら、僕たち新聞委員会がいつやるのかを新聞に書いてお知らせできるよ！

A：たしかに、とてもいいと思う。聞いていて思いついたんだけど、私たち清掃委員会でも清掃週間をつくって、他学年と一緒に清掃することができそうだなって。どうかな？

B：それいいね！ほかの学年との交流がふえるね！

【聞き方のポイント】

- ① 聞きたいこと（困っていることなど）を明確にして、尋ねる。→話題のきっかけ
- ② 相手の取り組みを参考に、自分の立場を考えながら聞く。
（自分の取り組みを参考に、相手の立場を考えながら聞く。）
- ③ 互いの案をつなげて、協力できることを考えながら聞く。
- ④ 共感できることを探しながら聞く。

4 研究主題に迫るために

(1) 本単元で深めていこうとしている学びの質について

「意欲的に自ら関わって聞き、考えを形成する力」を学びの質ととらえ、この力を深めることを本単元でねらっていく。この「求めて聞く力」を深めるために、話し手の考えを尊重して、話し手と聞き手相互の建設的な話し合いの中で聞く力を伸ばし、自分の考えをまとめていく。そこで、本単元では、「学校をよりよくする」ということを自分事とするとともに、聞き手が自分の聞こうとする意図を明確にして聞くことができるような手だてを工夫していく。

(2) 学びの質の向上を図る単元の工夫

① 単元の目標と単元を通して身に付けさせたい力を設定した意図

高学年児童は、自身の意見に対して他者から批判的な意見が入ると、自分の考えそのものを否定されたと感じてしまう児童が多い様子が見受けられる。そのため、相手の考えに対して積極的に自分の意見を述べようとしめない姿も見受けられる。一方で、自分の考えを優先し相手の考えを受け止めようとしめない児童もいる。これらの姿から、話し合いの際に意見を絡め合わせるなどして、一つのテーマに対して考えを深め自分の考えをまとめることに課題があると言える。そのため、目的を明確にもち、聞いたことを受けて返すことを意識した話し合いを行う力が求められていると考える。

② 主体的、対話的で深い学びの視点での授業改善につながる工夫

高学年児童にとって必然性のある話題にするために「学校をよりよくするために」という話題を設定し、実際の委員会活動につなげていく単元を設定した。また、単元の導入でこれまでの話し合い活動を振り返り、話すこと聞くことの力に着目した成果や課題を共有する。これらを通して、児童が聞くことに対して主体的に学ぶことをねらった。

更に、立場の異なる委員会の児童が、小グループを作って話し合い、その後、同じ委員会のグループで話し合いを深めることで、対話的な学びを促すことができると考えた。

(3) 評価活動の工夫

① 「児童にどういった力が身に付いたか」という学習の成果をとらえる評価の工夫

児童の話し合いの様子をタブレット端末で録音することで、聞くためのこつをおさえたい話し合いができたかどうかを見取る。録音は、1回目と2回目の話し合いの両方を録音することで、児童の変容を教師が評価できるようにする。

② 教師が指導の改善を図るための評価の工夫

児童が話し合いの際に書く、自分の考えが広がったり深まったりしたことが視覚的に分かるメモを基に、児童の考えの変容の過程を見取る。

③ 児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるための評価の工夫

第3時と第4時で話し合いを2回行う中で、1回目の聞くことの成果や課題を振り返り、児童が2回目の話し合いに更に身に付けたいことを意識して臨めるようにした。また、単元の始めにもった自分の考えと、話し合い後に再度まとめた考えを比較することで、児童自身が自分の考えの変容に気づき、身に付けた聞くことの力を今後の話し合いの場面で生かそうとすることができると考えた。

5 単元計画

過程 (次)	時	学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
1	1	<p>1 どんな学校にしていきたいのかイメージをもち、学校をよりよくするための案を出し合う。</p> <p>・他学年との交流を増やす。 ・学校のルールを、皆で楽しく守れるようにする。 ・皆が楽しめる企画を考える。</p>	<p>○高学年になって半年が過ぎ、学校全体の様子や自分たちの活動を振り返る時間を設ける。</p> <p>○ICTを活用して、案を集める。</p>	
		<p>「学校をよりよくするために」自分たちができること考えよう。</p>		<p>○学校全体を動かす委員会活動を通して、実現できるように促す。</p> <p>○各委員会について、簡単に紹介し合い、活動内容を共有する。</p> <p>○それぞれの委員会の人の意見を聞き、共に考えながら実現に向けて協力できるように助言する。</p> <p>○自分たちの考える、課題だけでなく、卒業が迫った6年生はどのような課題意識をもっているのかにも、目を向けるように助言する。</p>
1		<p>考えを比べて聞き、「スクールミーティング」でよりよい学校をつくろう</p>		
		<p>これまでの話し合いの経験をふり返り、話し合いが上手くいく、よい聞き方について考えよう。</p>		
2	2	<p>1 これまでの話し合いを想起し、話し合い方の課題を見つける。</p> <p>・話がうまく続かない。 ・何を答えていいかわからない。 ・質問されると、話しやすい。</p>	<p>○上手くいったことや、難しいと感じていることを振り返るようにする。</p>	
		<p>2 話し合いのモデルを見て、話し合いのポイントを確認する。</p>	<p>○聞きたいことを明確にして尋ねたり、相手の取り組みを参考に、自分の立場を考えながら聞いたりなど、聞き方のポイントを指導する。</p> <p>○動画や文字化資料を用いて、繰り返し見ることができるようになる。</p>	<p>◆情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。 ★発言・ワークシート</p>
		<p>3 聞いたことをメモし、記録できるようにメモの取り方の工夫を考える。</p>	<p>○メモの取り方について、4年生までの既習内容を振り返る。 ・記号や線、キーワードを使って簡単に書く。 ・箇条書きに書く など</p>	
		<p>4 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○次時に向けて、話題に対する自分の委員会への意見を持ち、スクールミーティング(1</p>	

			回目)でさらに話し合いたいことを明確にするように指導する。	
		友達と自分の考えを比べながら聞き、自分の考えをまとめよう。		
3	<p>1 話し合いのモデルを見て聞き方のポイントを確認する。</p> <p>2 話題①について、話し合う。</p> <p>3 話し合いで共に考えた内容を発表する。</p> <p>4 メモを見ながら、自分の考えを整理する。</p> <p>5 本時の話し合いについて、振り返る。</p>	<p>○各委員会から一人ずつ入るように、3～4人グループを作り話し合うようにする。</p> <p>○話題に対して、自分の委員会や他の委員会でアプローチできる方策について考えるように助言する。</p> <p>○必要であれば、ICTで録音した音声も振り返る。</p> <p>○聞き方についてはどうだったかに注目して、振り返るように助言する。</p> <p>○次時に向けて、話題に対する自分の委員会への意見を持ち、スクールミーティング(2回目)でさらに話し合いたいことを明確にするように指導する。</p>	<p>◆話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。</p> <p>★音声、ワークシート</p>	
4 (本時)	<p>友達と自分の考えを比べながら聞き、メモを整理して、自分の考えをまとめよう。</p> <p>1 前時の話し合いの振り返りから、話し合いの課題やポイント、メモの取り方を確認する。</p> <p>2 話題②について、話し合う。</p> <p>3 メモを見ながら、自分の考えを整理する。</p> <p>4 話し合いで共に考えた内容を発表する。</p> <p>5 本時の話し合いについて、振り返る。</p>	<p>○話し合いモデルを視聴し、前時の話し合いを想起して、改善点を考えるようにする。</p> <p>○話題に対して、自分の委員会や他の委員会でアプローチできる方策について考えるように助言する。</p> <p>○必要であれば、ICTで録音した音声も振り返る。</p> <p>○聞き方やメモの取り方についてはどうだったかに注目して、振り返るように助言する。</p>	<p>◆話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。</p> <p>★音声、ワークシート</p>	
5	話し合ったことをもとに、委員会で提案したいことをまとめよう。			
	<p>1 委員会ごとに、提案内容をまとめる。</p> <p>2 各委員会でまとめたことを発表する。</p> <p>3 単元について振り返る。</p>	<p>○各グループで話し合ったことを、同じ委員会の友達と共有し、提案できそうなことを、まとめるように助言する。</p> <p>○メモを活用して、考えを伝えるように指導する。</p>	<p>◆粘り強く互いの立場や意図を明確にしながら、学習の見通しをもって、身の回りの問題を解決するために話し合おうとしている。</p> <p>★発言・ワークシート</p>	

6 本時の学習

(1) 本時のねらい

話し手の考えと自分の考えを比較しながら聞き、自分の考えをまとめることができる。

(2) 本時の展開

学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
1 前時の話合いの振り返りから、話合いの課題やポイント、メモの取り方を確認する。	○前時のメモの良い例を示し、自分の考えをまとめたり整理したりするためのメモの工夫を指導し、本時で生かせるようにする。	
友達と自分の考えを比べながら聞き、メモを整理して、自分の考えをまとめよう。		
2 話題②について、話し合う。	○他の委員会や自分の委員会の活動を参考にしながら考え話すことについて、前時の具体的な場面を取り上げて押さえる。 ○話が止まってしまった時や、ずれてしまったときは以下の視点で、尋ねたり確認したりするように指導する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> ・話題に合っている内容か。 ・もっと具体的にするにはどうしたらよいか。 ・実現できそうか。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○ <u>おおむね満足できる児童への本時以降の手立て</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをまとめたり、自分の委員会の友達と共に情報を共有したりするために、メモを見返して活用することを指導する。 <p>○ <u>おおむね満足できる状況を目指す児童への本時以降の手立て</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 録音を聞きながら、話合ったことをメモに記録できるように指導する。またメモの良い例を参考に、自分の考えを簡単に付け足すことができるよう助言する。 </div>
3 メモを見ながら、自分の考えを整理する。	○必要であれば、ICTで録音した音声も振り返る。 ○話し合いながら書いたメモに、自分の考えも入れ、加筆修正しながらメモを完成できるように助言する。	
4 話合いで共に考えた内容を発表する。	○特に聞き方のポイントについて、良かった点について交流できるようにする。	◆話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。
5 本時の話合いについて、振り返る。	○聞き方についてはどうだったか、メモの取り方はどうだったかに注目して、振り返るように助言する。	★音声、ワークシート